

Title	研究データの未来を築く:研究データ管理人材の育成 によるオープンサイエンスの拡がり
Author(s)	甲斐,尚人;古川,雅子;長岡,千香子他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101985
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Japan Open Science Summit 2025 (JOSS2025) 6/24(火) 15:00~16:30 オンライン

研究データの未来を築く: 研究データ管理人材の育成によるオープンサイエンスの拡がり

甲斐尚人,白井詩沙香,神崎隼人,Voulgaris Nikolaos(大阪大学) 古川雅子,長岡千香子(国立情報学研究所)

大阪大学と国立情報学研究所(NII)は、「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の一環として、研究者・研究 支援者向けに、研究データ管理の基礎的・実践的な知識を、学認LMSなど複数のプラットフォームを通じて広く提供しています。 昨年度のセッションで報告した情報をアップデートし、最新の取り組みや課題を共有します。

具体的には、研究者・研究支援人材向けの教育プログラムの概要、学習管理システムや個別最適化を実現する仕組み、質的研究 分野での実践的な教育の試み、そして海外機関(ウィーン大学等)との連携について紹介します。

プログラム	登壇者
【情報提供】	
◆ 人材育成(研究データエコシステム構築事業)の取組み紹介(10分)	甲斐尚人
◆ 学認LMSを活用した大学横断型の研究データ管理教育支援(10分)	古川雅子
◆ 職種別のスキルフレームワークと教材再利用(10分)	長岡千香子
◆ エスノグラフィー分野でのRDM教育(10分)	神崎隼人
◆ 国際連携の可能性と将来像:ベルリン自由大学との協働(10分)	Nikolaos Voulgaris
【ディスカッション】	
◆ 大阪大学オープンサイエンスシンポジウムの成果と示唆(20分)	全登壇者
◆ オーディエンスとの対話(10分)	

RDM人材育成の取り組みの全体像

- ◆ 学習教材(マイクロコンテンツ教材)の開発
- ◆ 学習教材の展開

研究データ管理教材(基礎編・共通編・実践編)







- ◆ 職種別スキルとマイクロコンテンツのマッチング
- ◆ 職種別の学習カリキュラムの開発





情報系

学習教材(マイクロコンテンツ教材) 研究データ管理支援人材に求められる標準スキル

研究データ管理教材の開発および展開

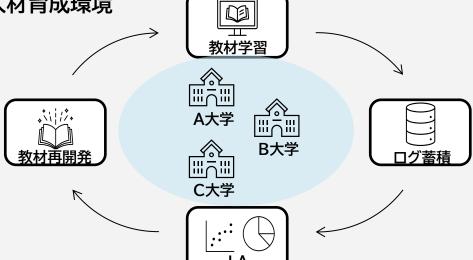
第一段階

第四段階 第三段階

職種別の学習カリキュラムの開発 LA基盤のプロトタイプ構築

人材育成環境の水平展開

◆ 人材育成環境

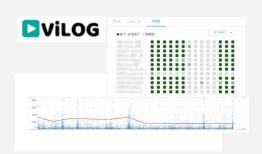


- ◆ 視聴・学習ログデータの集約
- ◆ ログの可視化・学習分析
- ◆ 学習教材の改善

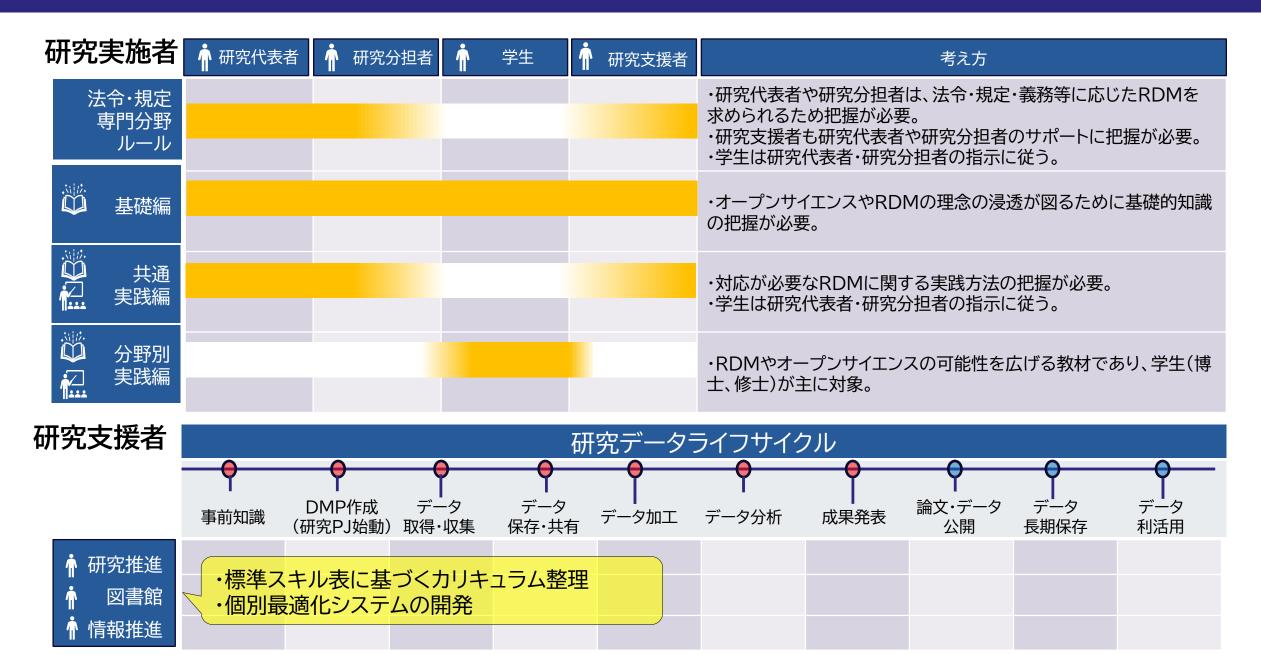
第二段階



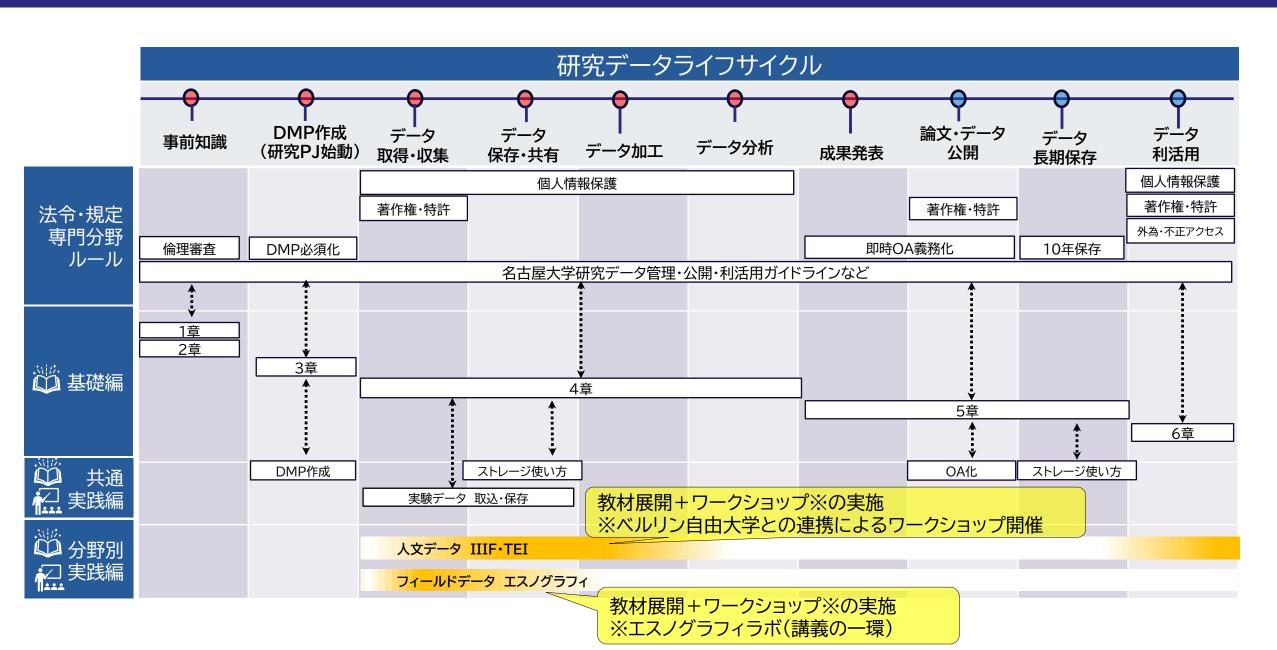




研究実施者・支援者への学習教材提供の考え方(検討中)



研究実施者・支援者への学習教材提供の考え方(検討中)



RDM基礎編の開発

「オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎」



構成

- ▶ 研究データマネジメントを知る
- ▶ 研究データポリシーと関係規程等
- ▶ 研究データ管理計画(DMP)
- → 研究データを取得・収集および保存・共有する
- ▶ 研究データを公開する
- ▶ 研究データを利活用する

RDMサイクルに沿って背景知識を教材化

職種別の学習カリキュラム作成

学内展開(FD研修)

オープンサイエンス時代における 研究データマネジメント基礎

講師:甲斐 尚人(D3 センター 准教授)



〈キーワード〉研究データマネジメント、オープンサイエンス、研究データ基盤、研究公正、研究データ管理計画、大阪大学研究データポリシー

(概要)世界的なオープンサイエンスの潮流によって、体系的かつ結構的な研究データマネジメントの重要性やそのあり方が近年注目されています。競争的資金においても、研究データ管理計画 (DMP) の作成や研究成果のオープンアクセスが求められつつあり、2025年度より新たに公募する対象研究費については、論文及び根拠データの即時オープンアクセスを義務づけるよう決定されました。このような状況を踏まえ、本研修では、オープンサイエンスの動向や本学の研究データボリシーの解説を行うとともに、研究データライフサイクルの各段階の留意点や本学の研究データ基盤整備の状況等について説明します。

《間合先:研究推進部 研究企画課 研究企画係 ☑ research-support@office.osaka-u.ac.jp》

《申込方法: (事前申込不要)マイハンダイ>大学本部事務機構>研究推進関係 / About Research Promotion > (CLE 研修)オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ。 受験完了には、確認問題とアンケートの回答が必須です。》

学外展開(学認LMS・OUKA・大阪大学特設サイト)





RDM共通実践編(OA・DMP)の開発



「オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援」

構成

- ▶ オープンアクセスの方法
- ▶ オープンアクセス出版とAPC など

「研究データ管理計画(DMP)とは 研究計画と データマネジメント〈学習編〉」 ^{構成}

- ➤ 研究データ管理とDMPの関係
- ➤ 研究データ管理計画(DMP)を作成時にポイント など

学内展開(OA:FD研修)

オープンアクセスを巡る状況と大阪大学にお旨 オープンアクセス支援

講師:図書館職員

₹₹₹₹₹ 6月2日~3月31日

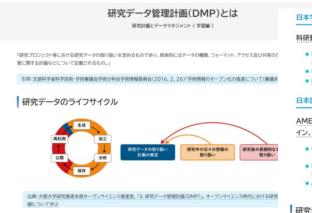
〈キーワード〉オープンアクセス、論文掲載料、転換契約、粗悪学術誌・ハゲタ

(概要)電子ジャーナルの価格高騰、論文掲載料 (APC) を必要とする 学術誌 (いわゆるハゲタカジャーナル) の出現など、大きく変す を巡る動向を学びます。加えて、大阪大学におけるオーブンア

《間合先: 附属図書館 図書館企画課 企画係 図 tosyo-kikaku-kikaku億 《申込方法: 事前申込不要・大阪大学 CLE にて動画を配信します。 受講後所定のフォームから受講報告をしていただきます。



学外展開(大阪大学特設サイト)



日本学術振興会 科学研究費助成事業(科研費

科研費における研究データの管理・利活用等について

- 「科研費での研究の実施にあたっては、研究データの管理計画書であるデータマネジメントブラン(DMP)を活用し、研究データの適切な管理や利活用の保護に関めていたださます。」
- ●「研究者は、オープン・アンド・クローズ戦略に従いDMPを策定し、それに基づいてデータの公開・共有を行ってください。」
- 科学研究費助成事業データマネジメントプラン(DMP)(作成上の注意)

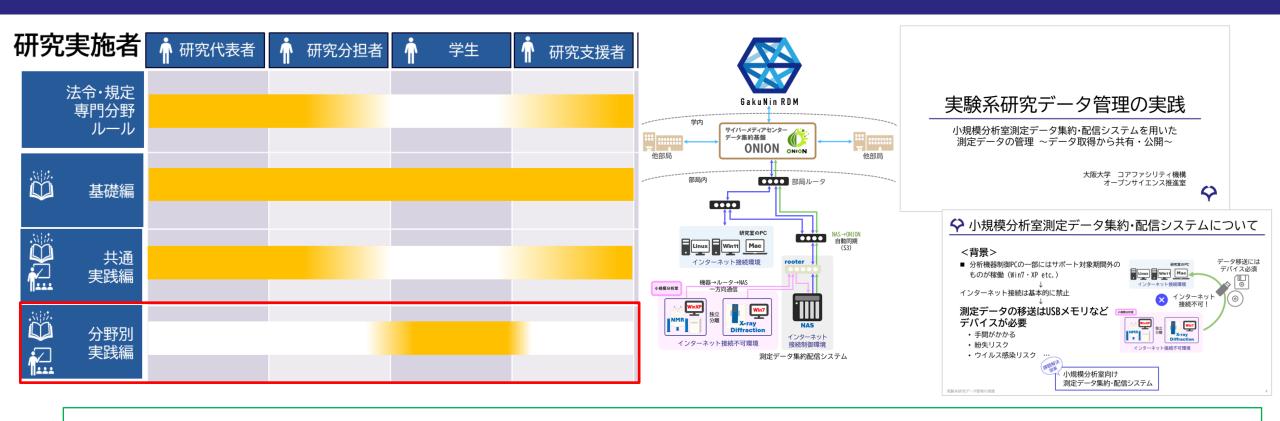
日本医療研究開発機構 戦略的創造研究推進事業(革新的先端研究開発支援事業)

AMEDにおける研究開発データの取扱いに関する基本方針、AMED研究データ利活用に係るガイドライン、データマネジメントプラン

- 「(省略)研究開発データの種類、保存場所等、データの管理責任者、データシェアリングその他のデータ利活用の方針等を記載する「データマネジメン プラン(DMP)」(以下、「DMP)という。)を委託研究開発契約等の締結時に提出することを義務化している。」
- 「DMP には、AMEDが委託者となる委託研究開発契約等において、どのようなデータが創出、取得又は収集され、誰がどこに保有しているのかを記載することが求められる。」
- AMED 研究データ利活用に係るガイドライン2.1 版

研究データ管理とDMPの関係

RDM実践編教材(実験データ) コアファシリティ機構と協働



▶ 学内展開

「小規模分析室測定データ集約配信システム」を導入済みの計8部局に教材を展開 (基礎工、工、歯、薬、超高圧電顕センター、レーザー研、理、コア工作)

> 学外展開

ユースケースで本学と同仕様のシステムを導入した阪奈機器共用ネットワーク(大阪公立大学、奈良工業高等 専門学校)に展開

➤ IIIF編

画像および動画の相互運用を推進する国際的な枠組みであるIIIF(研究用途に耐えうる高精細な画像)着目

➤ TEI編

テキストデータの構造化と分析に有効なTEI(テキスト構造理解・比較・定量分析を促進)に着目

RDMサイクルに沿って背景知識を教材化

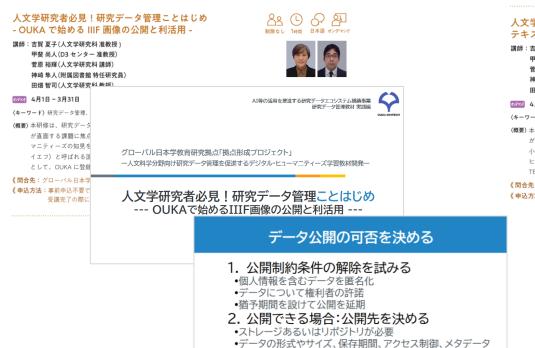
学内展開(FD研修)

学外展開(OUKA·学認LMS(IIIF))

実践教育経験のある海外大学(BFU)とワークショップを計画予定※BFUの取組みはこちらから

https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1296-1

https://youtu.be/25ufVp Ps1M



すること

(書誌項目)の記述などの要件に合致するかどうかを確認

 人文学研究者必見!
 Ag
 L
 Ag
 L
 Ag
 L
 Ag
 L
 Ag
 L
 Ag
 Ag
 L
 Ag
 L
 Ag
 Ag
 L
 Ag
 <t

講師:吉賀 夏子(人文学研究科 准教授) 甲斐 尚人(D3 センター 准教授) 菅原 裕輝(人文学研究科 講師) 神崎 隼人(附属図書館 特任研究員) 田畑 智可(人文学研究科 教授)

4月1日~3月31日

〈キーワード〉研究データ管理、TEI、テキストデータ

(概要) 本研修は、研究データの公開の重要性が高まる中、そのが が直面する課題に焦点を当て、知識と実践的スキルを提 小説や詩など様々なスタイルのテキストデータを分析する ヒューマニティーズ技術の基本や研究への応用例につい TEIデータの作り方や簡単なテキスト分析を行います。

《間合先:グローバル日本学教育研究拠点 図gis@ml.office.osa 《申込方法: 事前申込不要です。受講 URL: https://www.cle.osak 受講完了の際に、確認問題とアンケートの回答が必須

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業 研究データ管理教材 実践編



グローバル日本学教育研究拠点「拠点形成プロジェクト」 - 人文科学分野向け研究データ管理を促進するデジタル・ヒューマニティーズ学習教材開発-

人文学研究者必見! テキストデータとTEIで描く新たな研究ビジョン

ガイドラインの使用方法(1)

「TEIガイドライン」とブラウザで検索すると、右の画面のような「The TEI Guidelines」 (Current Guidelines)というページが見つかります



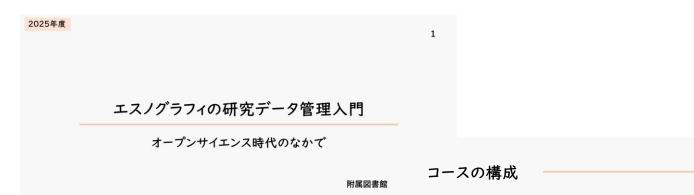
RDM実践編教材(エスノグラフィデータ) 人間科学研究科と協働

- ▶ 大阪大学人間科学研究科を中心に社会科学分野の質的な研究 手法「エスノグラフィ」におけるデータ管理教材を開発
- ▶ 人々に関する独特なデータに対応した取得、収集、保存、共有 を開発する必要がある。2024年度に開発着手、2025年度 の学内公開を目指す。

RDMサイクルに沿って背景知識を教材化

学内展開(CLE)学外展開(OUKA)で展開予定

既存のオープンラボでワークショップを計画予定※エスノグラフィラボの取組みはこちらから https://ethnography.hus.osaka-u.ac.jp/



人間科学研究科 人類学/科学

フィールドワークでの研究データ管理

- フィールドワークでの研究データ量は膨大
- ・研究データのバリエーションも様々(講義2参照)
- ⇒エスノグラフィの研究データ管理を身に着ける必要

本教材は「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」における研究データ管理教材実践編として作成されました

- •講義 | … エスノグラフィの研究ライフサイクルと研究デー
- 講義2 … エスノグラフィの研究データの特質と研究倫理、リチャーズ、L. 2009 『質的データの取り扱い』 大谷順子・大杉卓三沢 北大路書房、
- 講義3 … エスノグラフィのフィールドワークを実施する

研究データ管理計画

- 講義4 … エスノグラフィを作成する:データの分析、整理、共有
- •講義5 … 本学における「オープン・エスノグラフィ」の試み

取り組み成果の展開状況まとめ

◆ RDM基礎編教材

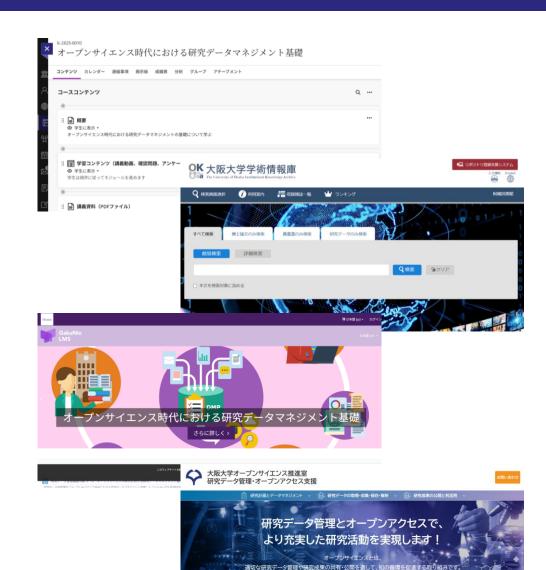
- 新任教員研修を実施中
- **学認LMS**・機関リポジトリ**OUKA**・大阪大学特設サイトで公開中

◆ RDM共通実践編教材

- オープンアクセス編
 - 新任教員研修を実施中
 - 機関リポジトリOUKAで公開予定
 - 大阪大学特設サイトで公開中
- ▶ データ管理計画(DMP)編
 - 大阪大学特設サイトで公開中

◆ RDM実践編教材

- ▶ 実験データ管理編
 - コアファシリティe-learningシステムで限定公開中
 - 機関リポジトリOUKAで公開中
- ➤ デジタルヒューマニティーズ(IIIF·TEI)編
 - 新任教員研修を実施中
 - 機関リポジトリOUKAで公開予定
 - 学認LMSで限定公開中(IIIF)
 - ベルリン自由大学と協働のワークショップ開催を計画中
- ▶ エスノグラフィー編
 - 機関リポジトリOUKAで公開予定
 - エスノグラフィラボでハンズオン教育を実施予定



大阪大学オープンサイエンスシンポジウムの開催

大阪大学オープンサイエンスシンポジウム オープンサイエンス時代の研究基盤と人材育成



研究データの管理とオープンサイエンスの推進には、技術的な基盤とそれを支える人材の 双方が不可欠である。本シンポジウムでは、日本および欧州の大学における先進的な研 究データ基盤の構築事例、ならびに人文学領域におけるデジタル技術活用の専門知見を 共有し、今後の日本におけるシステム基盤のあり方と人材像を議論する

プログラム

司会 甲斐尚人(大阪大学D3センター

開会挨拶 13:00-13:10 尾上孝雄(大阪大学理事・副学長・オープンサイエンス推進室長) 基調講演:「PHAIDRAと欧州研究データ基盤における持続可能性とコスト構造(仮)」 13:10-Raman Ganguly (University of Vienna, Computer Center, IT Support for Research) 13:50 **Éva Gergely**(University of Vienna, Computer Center, IT Support for Research)

> 講演1:「九州大学における研究データ管理基盤と人的支援」 冨浦洋一(九州大学データ駆動イノベーション推進本部)

14:10-14:20

13:50-

14:10

14:20-

14:40

15:00-

15:45

講演2:「オープンサイエンスを加速する大阪大学の計算基盤・データ基盤の現状と課題

伊達 進(大阪大学D3センター)

14:40-講演3:「デジタル人文学におけるIIIF・TEIと大容量データ活用(仮)」 15:00 吉賀夏子(大阪大学人文学研究科)

パネルディスカッション: 「未来を拓く研究データ基盤と支援人材像(仮)」

モデレータ :甲斐尚人(大阪大学D3センター)

パネリスト: Raman Ganguly(ウィーン大学コンピューターセンター)

冨浦洋一(九州大学データ駆動イノベーション推進本部)

伊達進(大阪大学D3センター) 吉賀夏子(大阪大学人文学研究科)

閉会挨拶 15:55

春本 要(大阪大学D3センター副センター長)

2025年5月16日(金)13時~16時

【開催場所】 大阪大学附属図書館6F図書館ホール(豊中キャンパス) & オンライン 【参加費】無料

【申し込み】

締切: 2025年5月14日(水)17時

主催: 大阪大学オープンサイエンス推進室 共催: 九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門 🚗 お問い合わせ:大阪大学オープンサイエンス推進室(甲斐) 🛮 E-mail:kai。n。lib@osaka-u。ac。jp

大阪大学オープンサイエンスシンポジウム オープンサイエンス時代の研究基盤と人材育成 大阪大学 一日本における実装と展望—



Raman

Jniversity of Vienna Computer Center

ウィーン大学コンピュータセンター・研究支援IT部門長。 ソフト ウェア開発およびメディア技術の専門家であり、デジタルデータの アーカイブやリポジトリの開発に従事。 ウィーン大学のオープン ソース型データリポジトリ「PHAIDRA」の技術責任者を務めるほか、 研究データ管理およびオープンエデュケーションを推進する国内の主 Ganguly 要プロジェクトも牽引。 モジュール型のシステム構築と、利用者中 心のデータ表現を、現代的なIT基盤の構築における重要な要素と位置 づけている。

ウィーン大学コンピュータセンター・プロジェクトマネージャー。比 較文学および情報技術を専門とし、研究データ管理に関連する国内連 携プロジェクトや各種イニシアチブの運営に従事。また、ウィーン大Éva 学のデータリポジトリ「PHAIDRA」において、ユーザー要件の調整や 開発のコーディネートも担当。



University of Vienna

Computer Center

データ駆動イノベーション本部研究データ管理支援部門、部門長。 図書館長の指示により研究データポリシー素案の策定に取り組み、これ を契機として、研究データ管理支援部門の設置や運営に携わる。

九州大学データ駆動イノベーション推進本部

修了。工学博士。2002年大阪大学大学院情報科学研究科助手。この間 (2005年2月から9月まで)、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校客| 員研究員。2005年大阪大学大学院情報科学研究科特任助教授。2007年 大阪大学大学院情報科学研究科特任准教授。 2008年大阪大学サイ バーメディアセンター准教授。 2023年大阪大学サイバーメディアセ ンター教授,現在に至る。



大阪大学D3センター



大阪大学人文学研究科

大阪大学大学院人文学研究科 准教授。佐賀大学大学院にて農学修士、 る。また、大阪大学グローバル日本学教育研究拠点デジタル日本学部門 の兼任教員、ならびに国立歴史民俗博物館の共同研究員も務めている。 専門は情報学、デジタルヒューマニティーズ(人文情報学)。